

平成 30 年 6 月 18 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(A) (海外学術調査)

研究期間：2014～2017

課題番号：26257005

研究課題名(和文) 東南アジアのアブラヤシ小農と農園企業：グローバル化に伴う行動様式変化とその影響

研究課題名(英文) Smallholders and Plantation Companies of Oil Palm in Southeast Asia: The Changes of Their Behaviour Accompanying the Globalization and Those Influences

研究代表者

林田 秀樹 (Hayashida, Hideki)

同志社大学・人文科学研究所・准教授

研究者番号：70268118

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、4年間にわたる標記研究課題関連の共同研究の結果として、数多くの研究成果を生み出してきた。各年度の研究実績報告に記載したものを集計してみると、論文15本、学会発表・招待講演24本、著書7冊(うち単著2冊)となる。このなかで特徴的なものを挙げると、以下の通りとなる。(1)本研究の課題名を上げる表題とする研究成果報告書を作成した。これには、研究代表者の林田を始め、13名の本研究メンバーと前身プロジェクトのメンバー3名が執筆した。(2)『東南アジア研究』55(2)に特集を組み、メンバー7名が投稿した。(3)2次にわたる学会パネル・公開講演会、2次にわたる国際セミナーを開催した。

研究成果の概要(英文)：Our project has created a lot of research results through joint research activity for four years under the titled theme. Summing up the figures in the respective annual reports of us, we have had 15 articles, 24 reports and speeches at several meetings of academic societies and invited lectures. The characteristic ones among those are as follows, (1)We have published the final reports of our research results having the same title with our project. The 13 members of our project including Hayashida and the 3 members of our preceding project have written some chapters and columns.(2)We have contributed 7 articles to the special issue of 'Southeast Asian Studies' vol.55 no.2. (3)We have had a panel discussion, an open lecture and two times of international seminars.

研究分野：開発経済学

キーワード：アブラヤシ パーム油 東南アジア 農園企業 小農 グローバル化 熱帯雨林

1. 研究開始当初の背景

【現実の背景】アブラヤシとそれを原料とするパーム油の2大生産国であるインドネシアとマレーシアには、本研究の開始時点(2013年)ですでにおよそ1,400万haのアブラヤシ農園が存在していた。これは、特に1990年代末以降に急激な開発が行われた結果であった。こうした農園造成は、森林破壊の要因として問題視され、主要開発主体としての農園企業がしばしば環境保護団体等から批判されていた。

ところがインドネシアにおいては、同時期にもう一方の主要な農園開発主体として小規模個別農家(小農)が台頭してきた。同国では、当時、アブラヤシ農園総面積約890万haのうち40%超を小農所有の農園が占めていた。1990年代末の25%前後という値と比べると、この間の小農による農園開発行動がいかに活発であったかがわかる。また、規模こそはるかに小さいが、タイでも同様にアブラヤシ小農の増大傾向が窺えた。

一方、両国の農園企業は、他の東南アジア諸国、あるいはアフリカや南米にまで進出してアブラヤシ農園を開発しており、特にマレーシアについては、パーム油関連企業も欧米・中東諸国の下流部門企業と提携しながらグローバル化を進展させるまでに行動を多様化させていた。

以上が、アブラヤシ小農と農園企業という主体の行動に焦点を当ててアブラヤシ農園の拡大に関連する調査・研究を必要ならしめていた現実面での本研究の背景であった。

【研究の進展状況】本研究は、2010-12年度の間、科研費(基盤研究(B))を得て活動を展開してきた。その際の研究実績については、2013年度初めに提出した研究成果報告書で詳述している。2013年度は科研費をえることができなかったが、他の研究資金を得、メンバー各自もそれぞれに資金を獲得して研究を継続し、研究成果も残して当研究を適切に開始できる状態であった。

なお、プロジェクトの活動スタイルは、そのとき以来、「アブラヤシ研究会」という研究会を定期的開催し、メンバー各自の調査研究活動の結果を報告し合うとともに、ゲスト講師を招いて研究交流を行うことを基盤とするものであった。

2. 研究の目的

1990年代末以降、インドネシア、マレーシアを始めとする東南アジア諸国において、パーム油原料の生産基盤であるアブラヤシ農園の開発が急激に推進されてきた。本研究の目的は、そのように通貨危機前後とそれ以降の東南アジアにおいてアブラヤシ農園の急拡大という事態が生じた要因と、それが各方面に及ぼす影響を、小農、農園企業という経済主体カテゴリーごとの行動様式変化を軸に、フィールド調査・文献調査に基づき学際的・実証的に解明することであった。

具体的目的もしくは課題は、小農・農園企業の行動様式変化と以下の諸事項との因果関係を解明することであった。すなわち、(1)経済グローバル化の進展、(2)アブラヤシ農園開発が進む東南アジア諸国の国内政治経済環境の変化、(3)小農の生活、地域社会の変容(4)アブラヤシ小農と農園企業間の関係の変化、(5)農園企業・パーム油関連企業のグローバルな事業展開、の5つの事項である。

以上のように、経済主体別の行動原理とそれに影響を及ぼした諸要因との関係、並びにその関係の変化を基点とする諸課題を遂行して、アブラヤシ農園拡大という現象が生じるメカニズムとその各方面への影響を動的かつ精確に解明しようとするところが本研究の特色であった。

3. 研究の方法

本研究の研究方法は、メンバー各自がそれぞれ調査経験を有するか、もしくは新たに関心を抱いた特定の国・地域で、アブラヤシ小農や農園企業の関係者、中央・地方政府の関係諸機関、NGO関係者等に直接聞き取りを行うとともに文献・資料を収集するというフィールド調査、及び収集した文献・資料を読み解析する文献調査を基本としている。

加えて、前述のアブラヤシ研究会を定期的開催することで各自の調査結果を報告し合い、情報を共有して活発に議論を行うというスタイルを貫いてきた。本研究の研究期間である平成26-29年度の4年間における開催回数は18回、延べ報告者数は46組50名に上る。そのような研究会の積重ねにより、互いの調査・研究の進行状況とその具体的内容、それぞれの研究成果を組み合わせる場合にどのような全体的構成をとることが最適であるかについての認識を共有することができた。

また、アブラヤシ研究会には、本研究のメンバー以外の報告者をも積極的に招聘し、アブラヤシ小農と農園企業の行動等に関連する研究報告を行ってもらってきた。特に、本研究の研究資金を基に、同志社大学東南アジアのプランテーション研究センター、京都大学東南アジア地域研究研究所、及びインドネシア国立タンジュンプラ大学社会政治科学部との間で締結された学术交流協定に基づき、タンジュンプラ大学側から延べ6名の報告者を招いてセミナーを開催した。これらの活動により、メンバー各自が内向きに閉鎖的な考えをもつことなく、当該問題を客観的にとらえ、その問題に対する多様なアプローチを常に意識して調査研究を推進することができた。

4. 研究成果

この4年間の主な研究成果は、次の「5. 主な発表論文等」に挙げた通りであるが、そのなかでも特筆すべき成果は次の3点である。まず、2016年1月23日に研究代表者の所

属機関である同志社大学人文科学研究所の第 88 回公開講演会として、「インドネシア・リアウ州のアブラヤシと煙害-グローバル化が促す農園企業・小農の行動とその帰結-」と題したシンポジウムを開催したことである。本研究の研究課題であるアブラヤシ農園拡大と農園企業・小農という経済主体の行動との関連を問うとともに、2015 年に大規模に発生したスマトラ島部における煙害発生の要因に焦点を当てた規格であった。永田淳嗣、増田和也に加え、プロジェクト外から渡辺一生を迎えて行った講演 3 本に対して、研究代表者の林田と、加藤剛がコメントを行った。その記録は、同志社大学人文科学研究所編『インドネシア・リアウ州のアブラヤシと煙害-グローバル化が促す農園企業・小農の行動とその帰結-』人文研ブックレット No. 53、132 頁として 2016 年 3 月に刊行された。

第 2 の主要な成果は、『東南アジア研究』(京都大学東南アジア地域研究研究所) 第 55 巻第 2 号に岡本正明と林田が編者となって「アブラヤシ農園拡大の政治経済学 アクター、言説、制度の視点から」と題する特集を組んだことである。これには編者 2 人のほか、岩佐和幸、永田淳嗣・小泉佑介(共著)、河合真之、寺内大左、藤田渡、加納啓良が計 8 本の論考を投稿した。各論考のタイトルは、次項に挙げた通りである。

第 3 の主要成果は、林田秀樹編著『アジアのアブラヤシ小農と農園企業 - グローバル化に伴う行動様式変化とその影響 - 』晃洋書房、2018 年 を発行したことである。これには、ほぼすべての研究分担者に加え、基盤研究(B)(平成 22-24 年度)の研究分担者も研究成果を執筆した。執筆者数は計 16 名、18 勝と 2 つのコラムからなる 398 頁の研究成果報告書となった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 13 件)

1. 林田秀樹「インドネシア国営アブラヤシ農園におけるプラスマ農園の再植 西カリマンタン州サンガウ島の事例から」『東南アジア研究』(査読有) 55(2)、2018、pp. 292-319。
2. 加納啓良「分析レポート：株式会社定款の変遷にみるインドネシアのアブラヤシ農園企業 20 世紀末までの展開」『東南アジア研究』(査読有) 55(2)、2018、pp. 367-399。
3. 岡本正明「もう一つの油戦争 不健康なパーム油という言説、その対抗言説の誕生と発展」『東南アジア研究』(査読有) 55(2)、2018pp. pp.217-239。
4. 藤田渡「ホワイトカラー農民の出現 - タイ南部のアブラヤシ栽培と人々の生活

世界 - 』『東南アジア研究』(査読有) 55(2)、2018、pp.346-366。

5. UBUKATA Fumikazu, HO, T. T., Climate Change in Vietnam's Mekong Delta: Soc Trang Rice Farmers' Perceptions and Adaptive Behaviors, *Journal of Environmental Science for Sustainable Society*, 査読有, Vol. 8, 2017, pp.1-14.
6. UBUKATA Fumikazu, Trinh M. A. N.; Kim, D-C.; Negotiating the State-making in Vietnam borderland - Case study of an ethnic minority group in Central Vietnam, *Belgeo*, 査読有, Vol. 4.2016, 2017, pp.1-25.
7. 岩佐和幸「アグリビジネスのグローバル化とパーム油産業の構造変化 「パーム油開発先進国」マレーシアを中心に」『東南アジア研究』(査読有) 55(2)、2018、pp.180-216。
8. 永田淳嗣・小泉佑介「インドネシアにおける農園事業許可法令の変遷」『東南アジア研究』(査読有) 55、2018、pp.240-250。
9. 寺内大佐「焼畑民によるアブラヤシ農園開発の受容 インドネシア東カリマンタン州・ベシ村を事例として」『東南アジア研究』(査読有) 55(2)、2018、pp.320-345。
10. 寺内大佐「焼畑先住民社会における資源利用制度の正当性をめぐる競合 インドネシア東カリマンタン州・ベシ村の事例」『環境社会学研究』(査読有) 22、2017、pp.82-98。
11. 藤田渡「ゴムを植えることにした人たちがタイ東北部から見るグローバル化」『東南アジア研究』(査読有) 54(1)、2016、pp.2-32。
12. 加納啓良「インドネシアのアブラヤシ栽培とパーム油輸出 統計による概観」『インドネシア・ニュースレター』査読無、88、2015、pp.2-13。
13. TERAUCHI Daisuke(1st), et al., Implication for Designing a REDD+ Program in Frontier of Oil Palm Plantation Development: Evidence in East Kalimantan Indonesia', *Open Journal of Forestry* (査読有), 4(3), pp.259-277, 2014.

〔学会発表〕(計 26 件)

1. FUJITA Wataru, Social Adaptation to Rubber Boom Attitudes of Government, NGOs and Farmers in Northeast Thailand, Consortium for Southeast Asian Studies in Asia (SEASIA) Conference 2017, 16th December, 2017, Chulalongkorn University, Thailand.
2. 藤田渡「国王の威徳で森を守る タイの森林変遷における「王室主導プロジェクト」の位置づけ」日本タイ学会第 19

- 回研究大会、2017年7月8日、法政大学、東京。
3. UBUKATA Fumikazu, An Overview: Rural Development and Commodification of Natural Resources/services, International Workshop on “Rural Development and Socially/Environmentally Responsible Commodities and Services: Processes and Impacts”, 6th March, 2018, Hue University of Agriculture and Forestry, Vietnam.
 4. UBUKATA Fumikazu and Hoang, T. Q., Rural Transformations and PFES in Central Vietnam, International Workshop on “Rural Development and Socially/Environmentally Responsible Commodities and Services: Processes and Impacts”, 6th March, 2018, Hue University of Agriculture and Forestry, Vietnam.
 5. 生方史数「仮想商品と山村社会 - ベトナム中部の PFES (森林環境サービスへの支払い) プログラムから」第 22 回 BKK 東南アジア研究会、2017 年 9 月 1 日、京都大学東南アジア地域研究研究所バンコク連絡事務所、京都。
 6. UBUKATA Fumikazu, Hoang, T. Q., The Contested Meaning over Natural Capital: Cases from the Payment for Forest Environmental Services (PFES) in Central Vietnam, ICAS 10, 20th-23rd July, 2017, Chiang Mai, Thailand.
 7. 生方史数「自然資本の意味と価値をめぐる交渉 ベトナム中部における PFES (森林環境サービスへの支払い) の実施と地域住民」東南アジア学会第 97 回研究大会、2017 年 6 月 3 - 4 日、広島大学、広島。
 8. UBUKATA Fumikazu and Hoang, T. Q., State Authorization over the Value of Nature: Policy Process of Payment for Forest Environmental Services (PFES) in Central Vietnam, The 25th Colloquium of IGU-CSRS, 16th-22nd April, 2017, University of Social Sciences and Humanities, Vietnam.
 9. UBUKATA Fumikazu, Watanabe, H., Nguyen, T. P. Chau and Kim, D-C., Reclamation and Utilization of Natural Resources by Immigrants Through an Interaction with the Local Government – A Case Study of Mangrove-shrimp Farming Area in Ca Mau Province, Vietnam, The 25th Colloquium of IGU-CSRS, 16th-22nd April, 2017, University of Social Sciences and Humanities, Vietnam.
 10. IWASA Kazuyuki, Transnational Agribusiness and Palm Oil Industrial Restructuring in Malaysia, International Workshop “The Future of Oil Palm in Indonesia and Malaysia,” Co-organized The Faculty of Social and Political Sciences, Tanjung pura University, The Research Center for Plantations in Southeast Asia, Doshisha University, and CSEAS Kyoto University, 1st December, 2017, Doshisha University, Kyoto.
 11. 新井祥穂・永田淳嗣「インドネシア・アブラヤシ農園企業における農園労働者の賃金水準」日本農業経営学会、2017 年 9 月 16 日、九州大学、福岡。
 12. 寺内大佐「小規模アブラヤシ農家を対象とした RSPO 認証制度の検討 - アマナ農民協会を事例に」日本熱帯生態学会、2017 年 6 月 18 日、奄美文化センター、奄美大島。
 13. UBUKATA Fumikazu and Hoang, T. Q., Contested Valuation of Environmental Services: Cases from PFES in Central Vietnam, International Workshop on “Forest, Peatland fire and Climate Change in Tropical Asia: Challenges toward Climate Resilient Livelihoods”, 27th-28th February, 2017, Tadulako University, Sulawesi, Indonesia.
 14. UBUKATA Fumikazu, Patterns of Commodification in Forest in Southeast Asia: An Overview, International Seminar on “Re-examining Commodification in Forest in Southeast Asia”, 25th January, 2017, CSEAS, Kyoto.
 15. UBUKATA Fumikazu and Hoang, T. Q., Capitalization of Nature and Its Contested Meanings: Payment for Forest Environmental Services (PFES) in Central Vietnam, International Seminar on “Re-examining Commodification in Forest in Southeast Asia”, 25th January, 2017, CSEAS, Kyoto.
 16. UBUKATA Fumikazu, Datai, H and Kim, D-C., Peasants and Agribusiness in the Middle-income Trap: the Case of “Safe and Traceable” Asparagus Production in Thailand, The 33rd International Geographical Congress, 21st-25th August, 2016, China National Convention Center, Beijing, China.
 17. UBUKATA Fumikazu and Hoang, T. Q., Local Struggles for the Co-production of Natural Capital: Cases from the Payment for Forest Environmental Services in Central Vietnam, IRSA Congress 2016, 10th-14th August, 2016, Ryerson University, Toronto, Canada.
 18. TERAUCHI Daisuke, A new approach to research on oil palm smallholders’ certification: “Suitability regarding stakeholders’ interests” and “sustainability in smallholders’ lives”, International Workshop “The Japan-ASEAN Collaborative Research Program on Innovative Humanosphere in Southeast

- Asia: In Search of Wisdom toward Compatibility Growth and Community in the World”, 16th December, 2016, Kyoto University, Japan.
19. HAYASHIDA Hideki, Replanting Problems of Smallholders’ Old Palm Estates: The Case of Plasma Estates in Sanggau Regency, West Kalimantan, The Seminar of the Department of Economics, the Center for Strategic and International Studies, the Center for Strategic and International Studies (CSIS), August 25th 2015, Jakarta, Indonesia.
 20. OKAMOTO Masaaki, Future Earth Program for the Smallholder Oil Palm Plantation & Its Challenge, International Seminar on Toward a Sustainable and Resilient Community, Co-existence of Oil Palm Plantation, Biodiversity and Peat Fire Prevention, 5th August, 2015, Riau University, Indonesia.
 21. 増田和也「リアウ、泥炭湿地帯の村落社会：小農の生計活動と土地利用の変容」同志社大学人文科学研究所第 88 回公開講演会 / 「インドネシア・リアウ州のアブラヤシと煙害 グローバル化が促す農園企業・小農の行動とその帰結」(招待講演) 2016 年 1 月 23 日、同志社大学、京都。
 22. 永田淳嗣「インドネシア・リアウ州のアブラヤシ産業の構造変化」同志社大学人文科学研究所第 88 回公開講演会 / 「インドネシア・リアウ州のアブラヤシと煙害 グローバル化が促す農園企業・小農の行動とその帰結」(招待講演) 2016 年 1 月 23 日、同志社大学、京都。
 23. 加納啓良「株式会社定款の変遷にみるインドネシアのアブラヤシ農園企業：20 世紀末までの展開」2014 年度アジア政経学会全国大会、自由応募分科会 3 「インドネシアにおけるアブラヤシ農園開発 制度の変遷と主体群の変化」, 2014 年 6 月 1 日、慶應義塾大学、東京。
 24. OKAMOTO Masaaki, Business and Politics of Bio-Energy and Sustainability in Southeast Asia: Focus on Palm Oil, The 17th Kyoto University Southeast Asia Forum: Thailand Energy Solution: Energy from Household and Agricultural Wastes, 7th February 2015, Twin Towers Hotel, Bangkok, Thailand.
 25. 永田淳嗣「リアウ州におけるアブラヤシ農園部門に対する政策変化と小農」2014 年度アジア政経学会全国大会、自由応募分科会 3 「インドネシアにおけるアブラヤシ農園開発 制度の変遷と主体群の変化」, 2014 年 6 月 1 日、慶應義塾大学、東京。
 26. 河合真之「インドネシア共和国における PIR (中核企業 小農) 方式の歴史的変遷」2014 年度アジア政経学会全国大会、自由応募分科会 3 「インドネシアにおけるアブラヤシ農園開発 制度の変遷と主体群の変化」, 2014 年 6 月 1 日、慶應義塾大学、東京。
- 〔図書〕(計 11 件)
1. 林田秀樹編著『アジアのアブラヤシ小農と農園企業 - グローバル化に伴う行動様式変化とその影響 -』, 晃洋書房, 398 頁, 2018 年。
 2. 加藤剛 (林田秀樹編著)『東南アジアのアブラヤシ小農と農園企業 - グローバル化に伴う行動様式変化とその影響 -』, 晃洋書房, 398 頁(244 - 270, 271 - 299) 2018 年。
 3. 生方史数 (林田秀樹編著)『東南アジアのアブラヤシ小農と農園企業 - グローバル化に伴う行動様式変化とその影響 -』, 晃洋書房, 398 頁(143 - 162) 2018 年。
 4. 生方史数 (遠藤環・大泉啓一郎・後藤健太・伊藤亜聖編)『現代アジア経済論 - 「アジアの世紀」を学ぶ』, 有斐閣, 337 頁, 2018 年。
 5. 加藤剛 (信田敏宏、白川千尋、宇田川妙子編)『グローバル支援の人類学 変貌する NGO・市民活動の現場から』, 昭和田堂, 365 頁(17-60), 2017 年。
 6. 藤田渡 (山本信人監修、井上真編)『東南アジア地域研究入門 1 環境』, 慶應義塾大学出版会, 368 頁(177-193) 2017 年。
 7. 寺内大佐 (山本信人監修、井上真編)『東南アジア地域研究入門 1 環境』, 慶應義塾大学出版会, 368 頁(291-312) 2017 年。
 8. 増田和也 (同志社大学人文科学研究所編)『インドネシア・リアウ州のアブラヤシと煙害 グローバル化が促す農園企業・小農の行動とその帰結 (第 88 回公開講演会 / 国際シンポジウム)』(人文研ブックレット No.53), 132 頁(70-114) 2016 年。
 9. 永田淳嗣 (同志社大学人文科学研究所編)『インドネシア・リアウ州のアブラヤシと煙害 グローバル化が促す農園企業・小農の行動とその帰結 (第 88 回公開講演会 / 国際シンポジウム)』(人文研ブックレット No.53) 132 頁(14-42) 2016 年。
 10. KAWAI Masayuki, Henry Schevvens, SAMEJIMA Hiromitsu, FUJISAKI Taiji and Agus Setyarso, Institute for Global Environmental Strategies (IGES), Japan, *Indonesia REDD+ Readiness: State of Play-March 2017*, 2017, 46p.

11. 加納啓良『<図説>「資源大国」東南アジア 世界経済を支える「光と陰」の歴史』洋泉社、206頁、2014年。

〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

林田 秀樹 (HAYASHIDA HIDEKI)
同志社大学・人文科学研究所・准教授
研究者番号：70268118

(2) 研究分担者

加納 啓良 (KANO HIROYOSHI)
同志社大学・研究開発推進機構・嘱託研究員
研究者番号：00134635

和田 喜彦 (WADA YOSHIHIKO)
同志社大学・経済学部・教授
研究者番号：10326514

鈴木 絢女 (SUZUKI AYAME)
同志社大学・法学部・准教授
研究者番号：60610227

加藤剛 (KATO TSUYOSHI)
総合地球環境学研究所・研究推進戦略センター・客員教授
研究者番号：60127066

岡本正明 (OKAMOTO MASA AKI)
京都大学・東南アジア地域研究研究所・教授
研究者番号：90372549

藤田 渡 (FUJITA WATARU)
大阪府立大学・人間社会システム科学研究科・准教授
研究者番号：10411844

生方 史数 (UBUKATA FUMIKAZU)
岡山大学・環境生命科学研究科・准教授
研究者番号：30447990

北村 由美 (KITAMURA YUMI)
京都大学・附属図書館・准教授
研究者番号：70335214

増田 和也 (MASUDA KAZUYA)
高知大学・教育研究部自然科学系農学部部門・准教授
研究者番号：90573733
(H24：連携研究者)

岩佐 和幸 (IWASA KAZUYUKI)
高知大学・教育研究部人文社会科学系社会科学部門・教授
研究者番号：40314976

永田 淳嗣 (NAGATA JUNJI)
東京大学・総合文化研究科・准教授
研究者番号：30218002

新井 祥穂 (ARAI SACHIHO)
東京農工大学・(連合)農学研究科(研究院)・講師
研究者番号：40345062

寺内 大左 (TARAUCHI DAISUKE)
東洋大学・社会学部・助教
研究者番号：10728140

(3) 連携研究者

河合 真之 (KAWAI MASAYUKI)
()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()